



隔月特別講義 共済基礎

第12講

★★共済基礎はいつまで続く?★★

共済基礎は、記事名の通り「講義」ですから、名大の講義と同じく15回で終わるのかどうか気になるところです。今回で12回目ですから、そろそろ予告があってもいいような気が…。齊京先生の発言に要注目です。さて、今回は共済の歴史を辿る内容の続編となっています。共済の歴史にはどのような物語があるのか、あなた自身で感じてみてくださいね。それでは齊京先生、よろしくお祈りします!!

さいきょうたろう
齊京太郎講師(36歳)



(齊京)みなさんこんにちは、共済基礎の時間です。前回の講義はちょっと不評だったみたいですね(苦笑)。

(梅床)まあ字ばっかでしたしね。

(齊京)今回も字ばっかです。。。

(梅床)ですね。でも書いてあることはそんなに難しくないんであまり気負いせずに読んでみてくださいね。

(齊京)フォローありがとう梅床くん!!

(梅床)フォローされないくらいにがんばってくださいよ。

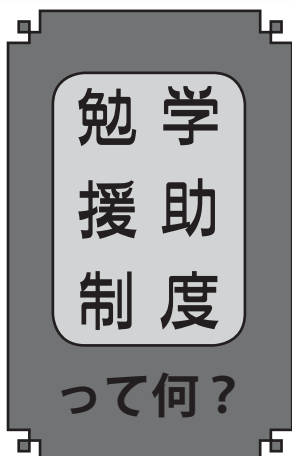
(齊京)一言多いなあ(苦笑)。

ばいしょうせきひで
梅床責任助手(26歳)



◆共済以外にもある!!学生が助け合う制度◆～勉学援助制度～

(梅床)ここでは、共済以外の助け合い制度を紹介します。それは、大学生協が行っている「勉学援助制度」というものです。これはですね、病気で扶養者の方が亡くなった学生に返還不要の奨学金を送るとい制度です(一人10万円か20万円)。そしてこの制度の福祉基金には、各大学の卒業生から寄付が送られているんですね。形は違えど、共済と同じく助け合いの精神を具体化している制度といえるでしょう。制度の詳細については、組合員コーナーでおたずねください。



(齊京)ちなみに、2006年卒業生の寄付状況を見ても、全国の大学から合計960万円の寄付があったということです(2006年10月時点)。大学によって金額の差はかなりありますが、さて名大はどうかというと……0円!!

来年卒業されるみなさん、後輩の勉学援助のために少しでもいいので寄付をしてみませんか?私も奨学金を受けて大学に通いましたが、非常にありがたいものです。おぼえてたら是非とも。詳細はやはり組合員コーナーにてご確認ください。

◆共済最新情報◆～学生総合共済に関する情報をお伝えします～

大学生協連合の冊子「共済メイト 2007 夏号 No.98」が発行されています

共済メイトとは、健康的な生活を送るための情報を提供する無料配布冊子です。今回は「心の免疫力をつけよう」と題し、メンタルヘルスケア特集となっています。配布場所は、北部厚生会館組合員コーナーの入り口前です(バックナンバーも置いてあります)。



◆講義本論◆ ~学生総合共済の歴史を辿る その式~

学生総合共済の発展と現在

- 1994年 申請書類の基準を変更して加入者の負担を軽減
- 1995年 学生生活無料健康相談テレホンを11月より開始
- 1996年 経験料率の採用で保障の改善と掛金引き下げ
- 1997年 剰余金の割戻し実施
- 1999年 学生賠償責任保険の加入が可能に
- 2000年 火災共済の保障最高額が増額
- 2003年 盗難保障付火災共済開始
- 2007年 扶養者病気死亡保障保険が扶養者死亡保障保険に変更
学生賠償責任保険に新たな付帯サービスが追加

(齊京) 前回に引き続き、共済の歴史を見ていきましょう。毎年、あるいは数年おきに制度が改善されたりサービスが追加されたりしていますね。今年度入学生の組合員から適用された変更も2つあります。こうやって見ると、現在の「学生総合共済、学生賠償責任保険、扶養者(病気)死亡保障保険」という形になったのはごく最近なんですね。

余談ですが、時代の流れや行政の指導により、近いうちに共済制度の大きな変革が行われる可能性が高くなっています。組合員にとって、よりわかりやすく、使いやすい制度になることを期待したいですね。

共済という考え方の原点に立ち返って

大学生協の共済が始まったときの考え、それは現在もこれからも大切にしていきたい「共済のこころ」といえるでしょう。それは下記のような考えです。

みんなが健康的に安全に大学生活をおくることができるように。もしも万が一の時は経済的にも精神的にも支援できるように。そしてなによりも、給付を受けた人も受けなかった人も、生協の共済を通じて「たすけあいのこころ」を実感して社会に巣立ってほしい。他人の気持ちを思いやれる人間になってほしい

これを読んであなたは何かを感じますか？みなさんは掛金を何気なく払っているだけかもしれませんし、共済なんて保険に似た制度だとか思っていないかもしれません。でも、共済制度を知ることによってこういった「想い」という側面が見えてくるのです。共済を知ること、それはすなわち「たすけあいのこころ」を知ることにつながるのです。なんとなくロマンチックでさえありますね。

(齊京) さて、今回で12講を終えましたが、14講まで講義を行って15回目にテストをやることにしました。あと3回、どうぞ最後までお付き合いくださいませ。次回は給付者の実体験に基づき講義を進めていきたいと考えています。それでは夏休み明けにまたお会いしましょう!!

文責:齊京太郎&梅床責任(Created by だづ)

高校のとき演劇部だったので、たまには発声練習でもしたいです。あめんぼあかいなあいうえおーってやつですね。まだ覚えているのかしら。ああ叫びたい。でも一人で公共の広場(=公園)で練習する度胸はないかもしれない。(リト)